



# 株主通信

第56期事業報告書

平成14年4月1日～平成15年3月31日

## 魅力ある複合機能都市づくりのために

グローバル化、高度情報化といった新しい時代に向けて、大きく変貌するメガシティ。単にビジネス機能だけではなく、人々が集い、暮らし、くつろげる、そんな複合機能を備えた魅力的な街が新しく誕生しました。

民間による国内最大規模の再開発プロジェクトが東京の「六本木ヒルズ」。ここには、フジテックの最先端テクノロジーを結集したエレベータとエスカレータ計62台が活躍。世界に発信する“文化都心”をコンセプトとするこの街で、フジテックは誰もが安全で快適に移動できるシステムを提供しています。

株主の皆様へ	1	単独決算情報	15
期中の主な活動	2	株式の状況	16
新製品	6	企業データ	17
連結決算情報	12		

## 株主の皆様へ



株主の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。  
第56期の営業概況と決算につきまして、ご報告申し上げます。

当期の世界を取り巻く経済は、当初は米国を中心に緩やかな回復傾向が見られましたが、その後の米国経済の減速、世界同時株安、イラク問題などにより、先行きの不透明感が強まりました。また、日本ではデフレが続き、期末株価が8,000円割れとなる危機的な様相を呈しました。

昇降機業界におきましては、中国市場は依然好調な需要が続きましたが、北米、欧州、その他のアジア地域では本格的な回復に至らず、受注競争が一段と熾烈になりました。日本市場も公共投資の減少と景況感の後退で民間設備投資も抑制され、価格競争が一段と厳しくなりました。

このような中、当社は「世界5極構造体制」の下、グローバルかつ有機的な連携による企業活動で生産と販売の効率向上に努め、この結果、当期の連結での受注高は921億円（前年比7.3%減）、売上高は979億円（同2.4%増）となりました。利益面では、営業利益は43億円（同1.9%増）、経常利益は44億円（同12.1%減）、当期純利益は18億円（同75.9%増）となりました。

単独での受注高は508億円（同0.6%減）、売上高は505億円（同0.2%増）となり、利益面では、営業利益が18億円（同72.8%増）、経常利益は41億円（同40.5%増）、当期利益は19億円となりました。

当期の利益配当金につきましては、1株につき5円とし、中間配当金と合わせた年間配当金を1株につき10円とさせていただきます。

さて、今後の企業環境は、グローバル競争の一層の激化により、ますます厳しくなるものと予想されますが、最終年度に入りました当社の中期経営ビジョン“Go for the Gold”の完遂により、収益の向上と社業の発展を期す所存でございます。

株主の皆様には、今後とも一層のご支援を賜わりますようお願い申し上げます。

取締役社長

内山高一

# Go for the Gold

3つのINNOVATIONを実現し、  
世界のトップを目指す！

「世界5極構造体制」を企業戦略として、アメリカ、欧州、南アジア、東アジア、日本の5本社が活発な活動を展開するフジテック。1948年に創業して以来、今年でちょうど55周年を迎えるとともに、21世紀の幕開きにスタートした3カ年計画の中期経営ビジョン“Go for the Gold”も最終年度になります。

この節目の年に、大いなる躍進を遂げ、更なる業績拡大を図るため、コスト革新、意識革新、技術革新という3つのINNOVATIONを標榜。全部門が一丸となって、これらのINNOVATIONを実現し、厳しい企業環境に打ち勝ちながら、確固たる世界のトップを目指しています。

**北米** 米国経済は、イラク問題の影響で減速傾向にありましたが、建築需要は、徐々に回復に向かっています。

スポーツ産業の盛んな米国では、全米各地にあるスタジアムの建設工事が相次いで行われ、シンシナティの“ポール・ブラウン・スタジアム”と“レッズ・スタジアム”、シアトルの“シーホークス・スタジアム”、フィラデルフィアの“イーグルス・スタジアム”、シカゴの“ソルジャー・フィールド”にエレベータとエスカレータ計96台を納入しています。

また、シアトルの高級オフィスビル“IDXTワー”



IDXTワー

が完成し、エレベータとエスカレータ計26台が活躍しています。

カナダでは、トロントの中心部に建つ大規模複合ビル“マリタイム・ライフ”が完成し、エレベータとエスカレータ計15台が活躍しているほか、バンクーバーの高級オフィスビル“サリー・シティ・センター”では高速エレベータ8台が納められています。



サリー・シティ・センター

**南米** 南米では、政治・経済共に依然混迷が続いていますが、緩やかな回復傾向が見られます。

アルゼンチンでは、ブエノスアイレス市内に建つ最大手の銀行“ガリシア銀行本店ビル”が建設中です。地

上32階建の同ビルには、格調高いエレベータとエスカレータ計20台が納められます。同じくブエノスアイレス市内に建つ南米屈指の高さを誇る超高層マンション“エル・ファーロ”が完成し、ハイグレードなエレベータ6台が活躍しています。



エル・ファーロ

ベネズエラでは、カラカスに建つ地上17階建の政庁舎“メトロリンゴ”が完成し、エレベータとエスカレータ計14台が稼働しているのを始め、空の玄関口となる“マイケティア国際空港”の拡張工事向けに、エレベータとエスカレータ計20台が納められます。

**欧州** ユーロ圏では、依然ドイツが不安定な景気情勢で推移していますが、再開発プロジェクトや中規模ビルなどの建設が数多く進められています。

英国では、ロンドンのカナリー・ワーフ地区にそびえ立つ、世界的な金融機関“HSBC本社ビル”が完成。英国を代表するフォスター&パートナーズ設計による地上45階建の同ビルには、分速420mの超高速機種を含むエレベータとエスカレータ計46台が活躍しており、その出来栄は高く評価されています。



HSBC本社ビル

また、英国とフランスとの間のドーバー海峡に作られた英仏海峡トンネル鉄道では、ロンドン市内から同トンネルまでの3駅に、展望用機種を含むエレベータ30台を一括受注しており、今年から順次設置されます。



ダルムシュテッター・ラントシュトラッセ

ドイツでは、南フランクフルトの一流オフィスビル“ダルムシュテッター・ラントシュトラッセ”に、エレベータ12台を納めています。

このほか中東では、ヨルダンの最高級ホテル“フォーシーズンズ・ホテル・アンマン”や、バーレーンの大手銀行“シティバンク中東本社ビル”にも多数のエレベータが活躍しています。

**南アジア** 南アジアでは、民間物件の建設が低迷しているものの、景気対策としての官庁物件が活発に推進されています。



HDBの高層住宅群

シンガポールの中心部では、HDB（政府住宅開発局）の大規模複合施設“HDBハブ”が完成。地上33階建と28階建の高層ビル

を中心とする同施設には、HDB本部やオフィス、商業施設などが入居しており、ここに分速420mの超高速機種を含むエレベータとエスカレータ計64台が活躍しています。

このHDBが供給する高層住宅向けに、このほどエレ

ベータ600台のモダニゼーション（全面改修）を一括受注しました。

また、シンガポールでは、ハイテク技術の研究開発センターとなる“バイオポリス”向けに、エレベータとエスカレータ計53台を受注したのを始め、シンガポール最大規模を誇る“国会図書館”向けにエレベータ10台を納入します。

マレーシアでは、行政機関の中核地区となるクアラルンプール近郊のプトラジャヤにおいて、政府関連施設がこのほど完成し、エレベータとエスカレータ計48台が活躍。同じくマレーシアでは、高級リゾートホテル“ファースト・ワールド・ホテル”でも、数多くの商品が活躍しています。



ファースト・ワールド・ホテル

**東アジア** 旺盛な建築需要の下で目覚ましい成長を遂げている中国を始め、東アジアでは堅調な推移が続いています。

香港では、香港国際空港に近いマーワン島に建つ大規模高層住宅“マーワン”に、このほどエレベータ35台を設置。全工事完成時には、計73台が納められます。また、高級住宅の“レイトン・ヒル”では、エレベータとエスカレータ計33台が活躍しているのを始め、地上53階建の超高層住宅“ベルチャーズ”にはエレベータ57台が納められています。

台湾では、台南市に建つアジア最大規模の商業施設“新光三越 台南新天地”がオープンし、エレベータとエスカレータ計105台が活躍。また、台北市内に建設



寧波天一広場

市の複合商業施設“寧波天一広場”が完成し、エレベータ27台が活躍しているほか、南京市では大型デパート“南京大洋百貨”にエスカレータ46台、“華泰証券ビル”に高速エレベータ8台が納められています。このほか韓国では、“サムスン生命保険ビル”や“浦項科学技術大学デジタル情報館”に多数のエレベータを納入しています。

浦項科学技術大学  
デジタル情報館

される“新光三越 信義新天地”向けにエレベータとエスカレータ計39台を受注したことで、同デパートへの納入累計は306台に達しました。

中国では、浙江省寧波



**日本** 都市再生を目指し、着々と進められてきた大規模再開発事業が相次いで完成し、低迷する日本経済に活力を与えています。東京では、民間による国内最大規模の再開発プロジェクト「六本木ヒルズ」が4月に堂々オープン。地上54階建の超高層ビル“六本木

グランドハイアット東京

ヒルズ森タワー”を始め、ホテル“グランドハイアット東京”や“ヴァージンシネマズ 六本木ヒルズ”をキーテナントとする複合施設に、フジテックの最先端技術を結集したダブルデッキ・エレベータやエスカレータ計62台が活躍しています。

また、「汐留シオサイト」に建つ“ロイヤルパーク汐留タワー”や“汐留メディアタワー”などに、エレベータとエスカレータ計20台が納められているほか、“ガーデンエアタワー”には分速420mの超高速機種を含むエレベータとエスカレータ計19台が活躍。さらに、“プルデンシャルタワー”や“東京女子医科大学 総合外来センター”にも多数のエレベータとエスカレータが稼働しています。

大阪では、難波再開発地区に建つ地上30階建の最先端オフィスビル“パークスタワー”が今秋完成予定で、ここには高速エレベータとエスカレータ計12台が納められます。

このほか、札幌では、道内最大規模のプロジェクトとなる“JRタワー”が完成し、オフィス、ホテル、商業施設から成る同施設に、高速エレベータ13台が活躍中です。

JRタワー



プルデンシャルタワー



## 業界初！ 乗場ドアが煙を防ぐ 「遮煙エレベータ乗場ドア」

ビルの火災時に、他階への煙の流入を防ぐための設備の設置が義務付けられています。エレベータ乗場ドアの場合、一般の防火戸とは違い、常にドアを開閉させることから、一定のすき間が不可欠となり、ドア単独で遮煙性能を持たせることは困難とされてきました。そのため、エレベータ乗場ドアの前に、シャッターやスクリーン、引き戸といった防火設備の追加工事が必要となり、またエレベータ乗場三方枠のデザインも制約を受けてきました。

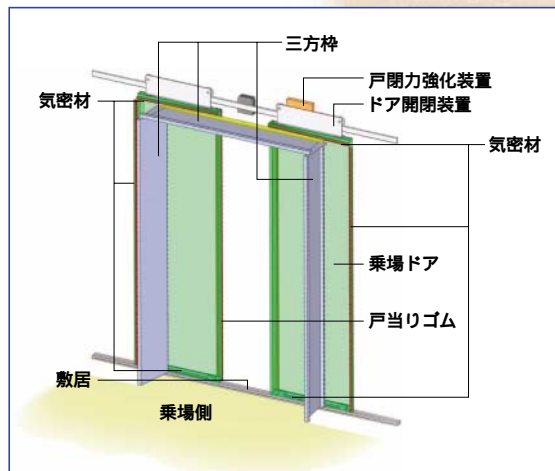
フジテックでは今回、これまでの常識を覆し、エレベータの乗場ドアそのものに遮煙性能を持たせた、画期的な「遮煙エレベータ乗場ドア」を開発しました。

これは、高度な気密性ノウハウと、豊富なエレベータ技術が見事に融合して実現したもので、今年3月25日に国土交通大臣の認定を取得。業界初の商品として、大きな反響を呼んでいます。

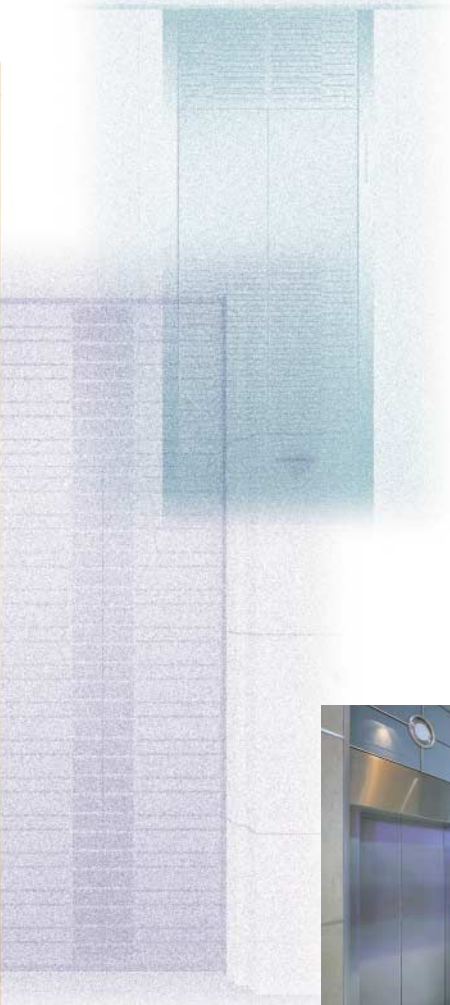
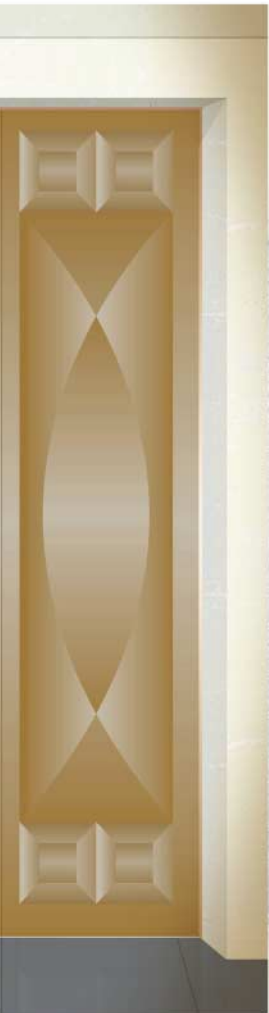
### 「遮煙エレベータ乗場ドア」の構造

エレベータ乗場ドアと三方枠、また乗場ドアと敷居との間にあるすき間を、特殊気密材で密閉することにより、乗場ドアそのものに高度な遮煙性能を持たせた構造となっています。

また、乗場ドアの構造に独自の工夫を凝らすとともに、ドア開閉装置の制御性能を一段と向上させることにより、確実な戸閉めを実現しました。







### 特別な防火設備工事が不要で、設計の自由度が向上

「遮煙エレベータ乗場ドア」は、乗場ドアそのもので、エレベータ昇降路の防火区画とすることができますので、特別な防火設備の追加工事は一切不要となり、建築工事との取り合いもなくなります。

これにより、エレベータの据付工事だけで済むため、全体工期が短縮できるばかりか、建築コストの削減も図ることができます。

また、従来どおりの納まりが可能なことから、乗場三方枠のデザインを損なうこともなく、設計の自由度が向上します。

乗場ドアに設けられた特殊気密材は、扉の開閉音と開閉頻度を考慮して、静粛性と耐久性に優れたものとしています。

「遮煙エレベータ乗場ドア」には、2枚戸両開きと、2枚戸片開きの2タイプがあり、オフィス、マンション、病院など、建物用途を問わず、エレベータの乗場ドアに対応できます。



2枚戸両開き



2枚戸片開き

新設はもとより、既存建物のエレベータにも、乗場ドアおよびドア装置の交換で対応でき、エレベータ縦穴区画が変更となるモダニゼーション工事に最適です。

## 「六本木ヒルズ」で活躍する 新型ダブルデッキ・エレベータ

民間による国内最大規模の再開発プロジェクトとして、4月に華々しくオープンした東京の「六本木ヒルズ」。ここには、フジテックのエレベータとエスカレータ計62台が活躍しており、その中核となる“六本木ヒルズ森タワー”には、新型ダブルデッキ(2階建)エレベータ FLEX-DD が7台納められています。

地上54階建の同ビルは、オフィス、店舗、美術館といった多彩な構成になっていて、大量輸送と階床間隔の違いから、ダブルデッキ・エレベータが大きな威力を発揮しています。

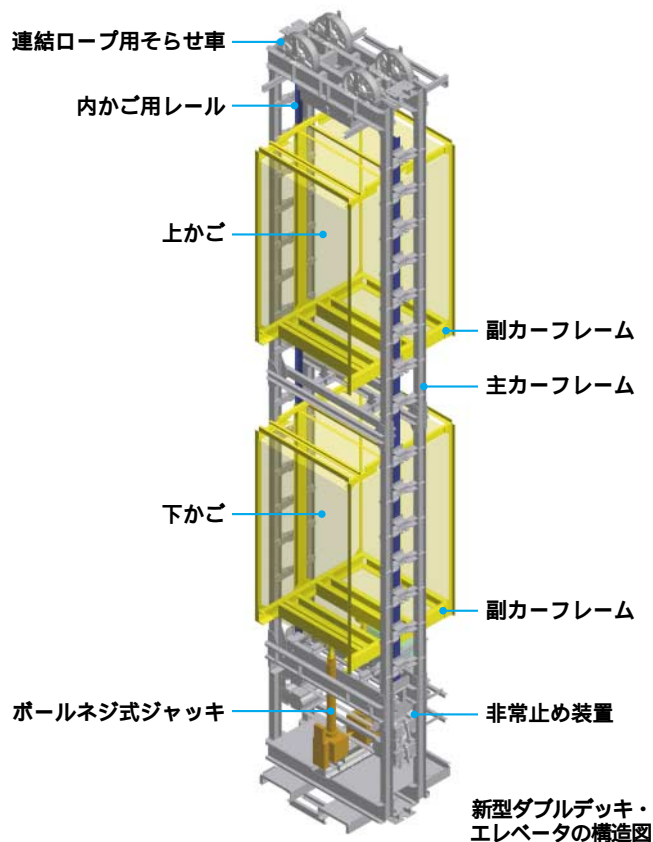
従来のダブルデッキ・エレベータは、上下のかご間隔が固定されていたため、建物の階床間隔を一定にする必要があり、建築設計上の大きな制約となっていました。

フジテックの新型ダブルデッキ・エレベータは、建物の各階の高さに合わせ、上下のかご間隔を自動的に調整するという、世界初の画期的な新機構を採用しています。

上下のかごをワイヤロープで直結し、下かごの下部に設置したボールネジ式のジャッキで、上下のかご間隔を自在に調整するものです。

ワイヤロープを用いることで、階床間距離の制約がなく、長い距離にも対応できる上、エネルギーロスも少なく済むなど、数々のメリットをもたらします。

フジテックの最先端技術を結集した新型ダブルデッキ・エレベータ FLEX-DD は、これからの大規模超高層ビルに最適な輸送手段として、ますます重要な役割を担います。



新型ダブルデッキ・エレベータの構造図



“六本木ヒルズ森タワー”で活躍する  
新型ダブルデッキ・エレベータ

## 世界初！タロンドライブ方式の 新世代エレベータ ベルタ

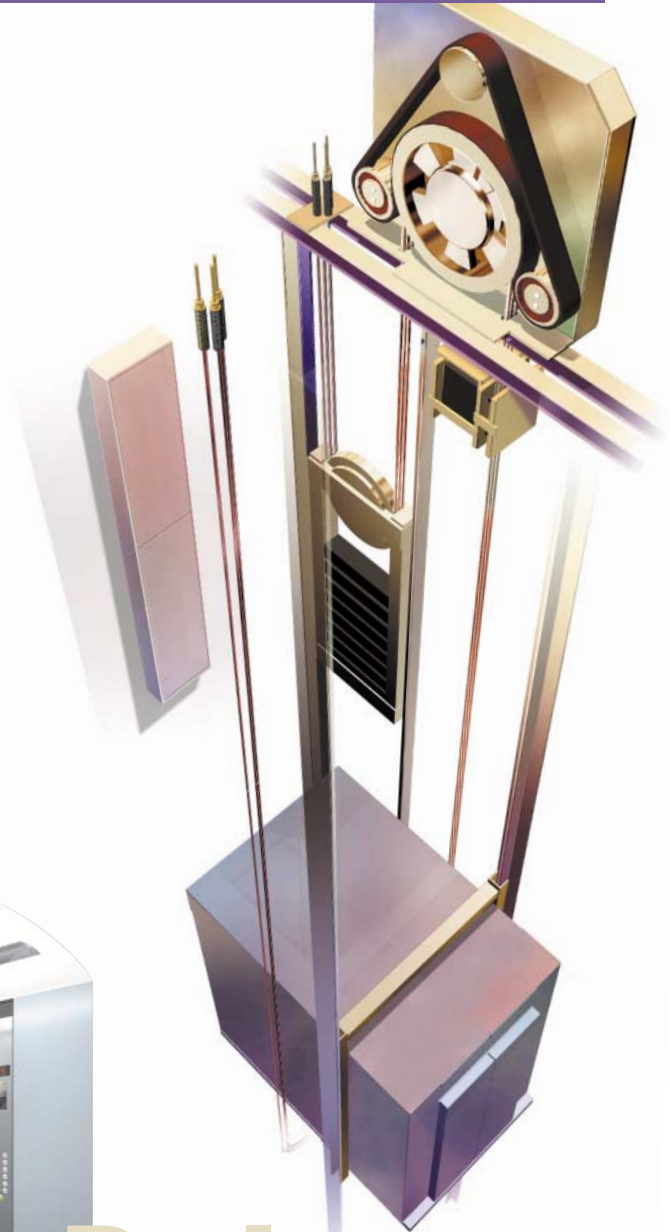
100年間続いた従来の駆動システムとは全く異なる、世界初の独創的なエレベータ駆動システムとして開発されたのが、「タロンドライブ方式」。シープにかかるロープを特殊ベルトで押し付け、このベルトを駆動することにより、かごを昇降させるもので、ロープの滑りを考慮することなく、かごの飛躍的な軽量化が可能となります。

この「タロンドライブ方式」を採用した新世代エレベータが ベルタ です。ベルタ は、世界市場に向けた商品として、欧州を皮切りに、アジア、米国、中東、日本へと順次、販売を拡大していきます。

主要な商品特長としては、かごの軽量化に伴って、建物側への荷重負担が軽減されるのを始め、駆動装置の小型化によって昇降路の省スペース化が図れるほか、設計の自由度も向上します。さらに、従来方式に比べ、ロープの摩耗が減少することで、ロープの長寿命化が実現します。

一方、かご内室では、ヨーロッパ調の心地よく、洗練されたデザインが施されるとともに、かご操作盤および乗場ボタンとも、どなたにも使いやすい操作性を追求しています。

これまでのエレベータの概念を変えた新駆動システム「タロンドライブ方式」を採用した新世代エレベータ ベルタ は、今後、世界各地のビルで大いに活躍することでしょう。



# Belta™

## 新感覚のデザインを提案する NEW XJシリーズ

快適性、機能性、静粛性、安全性に加え、今、エレベータに強く求められるのは、新世紀にマッチした新感覚のデザイン性と、どなたにも使いやすい「ユニバーサルデザイン」への対応です。フジテックでは、こう

したニーズに的確にお応えするため、オーダー型エレベータ XJシリーズ を一新しました。

かご内室では、シンプルでスマートなタイプから、オリジナリティー豊かな雰囲気を出し出すタイプまで、18種類の多彩な提案モデルをラインアップ。



乗場ドアの提案モデル

また、ボタンユニット、ホールランタンといった意匠器具において

は、機能性と視認性を徹底追求するとともに、超長寿命化と省エネルギー化に対応して、全面LED化を実現。中でも、ホールランタンは、赤・白・黄・青・緑と5色のLEDをラインアップし、新しい乗場空間のカラーコーディネートが演出できます。

NEW XJシリーズ は、これら提案モデルをベースにすることにより、建物の用途・色調・雰囲気にうまくマッチしたエレベータが選定できるばかりか、施工に要する予算も把握できるなど、的確でスムーズな意匠計画が可能です。

オフィスからホテル、商業施設に至るあらゆるビル用途に合わせ、NEW XJシリーズ は、個性を主張しながら、新たな都市空間を創造します。



かご内室の提案モデル

## グローバル・スタンダードの 新型エスカレーター GSシリーズ

駅や空港の交通ターミナルから、ホテル、商業施設、公共施設に至るまで、スムーズな人の流れをつくるエスカレーター。フジテックでは、新世紀にふさわしい最先端テクノロジーと新感覚のデザインを採用した、新型エスカレーター GSシリーズ を商品化しました。

GSシリーズ では、エスカレーターのフォルムを印象づける乗降口の欄干部に、今までにないエレガントなデザインを採用。また、エスカレーターの運転方向を示す矢印灯を新しく装備することで、乗客にはエスカレーターの上り下りがひと目でわかります。

また、エスカレーター内部のステップ駆動構造を見直すことで、従来より乗り心地が格段に向上するとともに、静粛性にも優れています。

インテリアパネルに透明強化ガラスを採用したタイプを始め、ハンドレール下部にスリムライン照明をあしらったタイプ、そしてインテリアパネルにステンレスヘアライン仕上げを施したタイプなど、建物用途に応じて3タイプをご用意。

さらに、通常の勾配30度に加え、設置スペースが一段と少なく済む「35度タイプ」も新しく登場しました。

この GSシリーズ は、日本のみならず、世界市場に向けて販売拡大を行うため、世界各国の規格に対応したグローバル・スタンダードを実現しており、世界の主要な交通ターミナルやホテル、商業施設に数多く納められています。

エスカレーターの  
運転方向を示す矢印灯



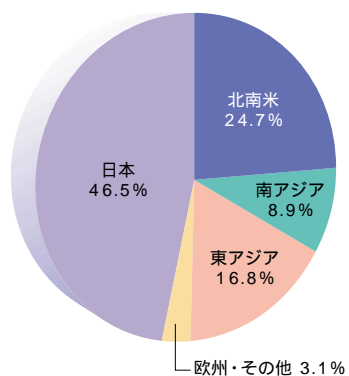
# 連結決算情報

## 営業の状況

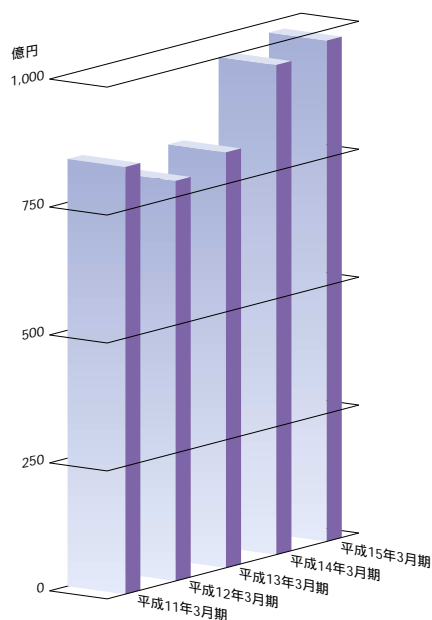
平成15年3月期(平成14年4月1日～平成15年3月31日)

	受注高		売上高		受注残高	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
エレベータ部門	87,927	95.4	93,107	95.1	83,140	96.6
立体駐車設備部門	4,201	4.6	4,831	4.9	2,949	3.4
合計	92,129	100.0	97,938	100.0	86,089	100.0

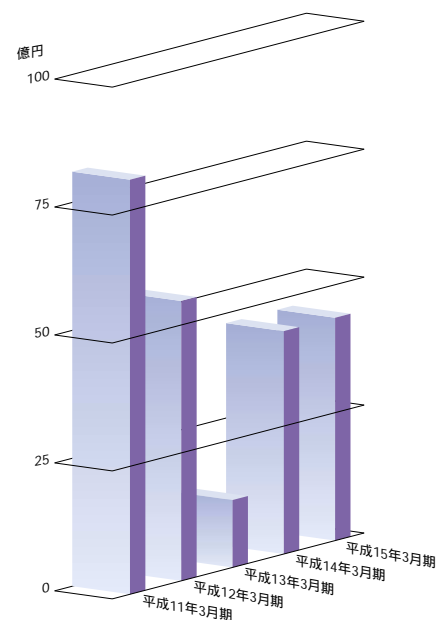
売上高比率(平成15年3月期)



売上高



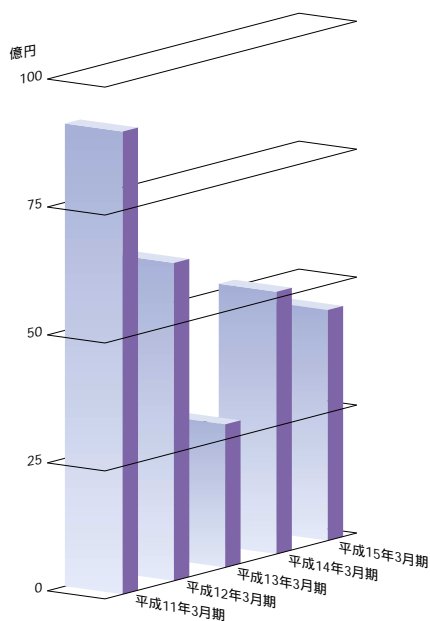
営業利益



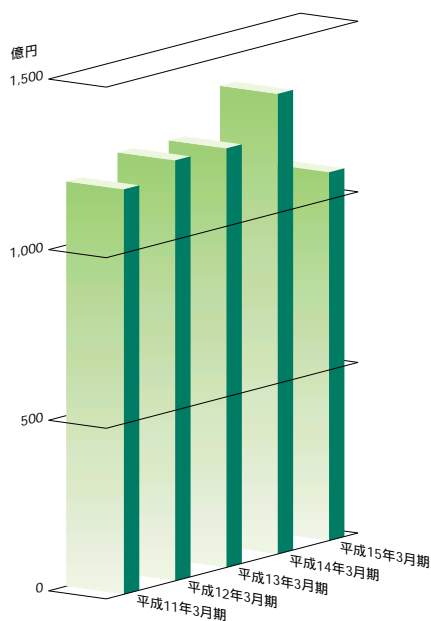
## 業績の推移

		平成11年3月期	平成12年3月期	平成13年3月期	平成14年3月期	平成15年3月期
売上高	百万円	83,495	78,169	81,173	95,657	97,938
営業利益	百万円	8,039	5,362	1,324	4,254	4,334
経常利益	百万円	8,929	6,135	2,760	5,061	4,450
当期純利益	百万円	4,276	343	718	1,059	1,863
1株当たり当期純利益	円	45.61	3.66	7.66	11.30	19.07
総資産	百万円	117,170	121,693	121,317	133,227	106,620
純資産	百万円	68,740	66,264	53,730	56,883	54,885
1株当たり純資産	円	733.11	706.82	573.21	606.95	585.04
研究開発費	百万円	1,940	2,161	2,152	2,100	2,211
設備投資	百万円	3,386	3,979	1,679	2,331	2,063

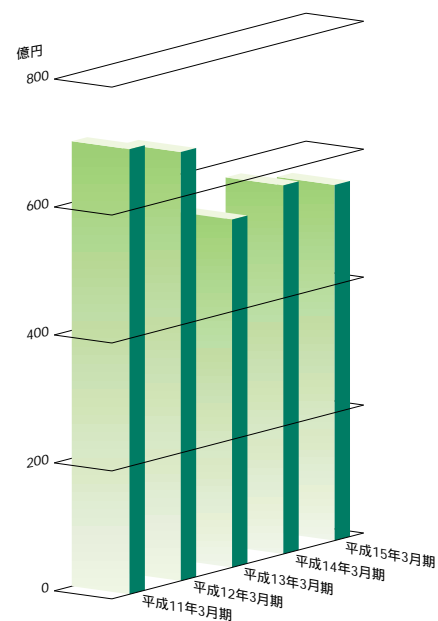
### 経常利益



### 総資産



### 純資産



## 連結貸借対照表

(平成15年3月31日現在)

科 目	金額(百万円)	科 目	金額(百万円)
<b>資産の部</b>		<b>負債の部</b>	
流動資産	72,838	流動負債	39,055
現金及び預金	26,956	支払手形及び買掛金	9,593
受取手形及び売掛金	26,800	短期借入金	7,633
たな卸資産	17,539	長期借入金(1年以内返済)	5,112
繰延税金資産	1,006	未払法人税等	615
その他	743	賞与引当金	1,386
貸倒引当金	207	完成工事補償引当金	25
		工事損失引当金	2,202
固定資産	33,781	前受金	7,695
<有形固定資産>	(19,642)	その他	4,789
建物及び構築物	8,854	固定負債	6,180
機械装置及び運搬具	3,285	長期借入金	27
工具器具及び備品	1,498	繰延税金負債	76
土地	5,814	退職給付引当金	5,489
建設仮勘定	189	役員退職慰労引当金	573
		長期未払金	13
<無形固定資産>	(4,205)	負債合計	45,236
営業権	2,107		
借地権	632	少数株主持分	6,499
ソフトウェア	108		
連結調整勘定	36		
その他	1,320		
<投資その他の資産>	(9,933)	<b>資本の部</b>	
投資有価証券	4,318	資本金	12,533
長期貸付金	70	資本剰余金	14,565
繰延税金資産	2,967	利益剰余金	39,951
その他	2,859	その他有価証券評価差額金	490
貸倒引当金	284	為替換算調整勘定	11,611
		自己株式	63
資産合計	106,620	資本合計	54,885
		負債、少数株主持分及び資本合計	106,620

## 連結損益計算書

(平成14年4月1日～平成15年3月31日)

科 目	金額(百万円)
売上高	97,938
売上原価	77,064
販売費及び一般管理費	16,539
営業利益	4,334
営業外収益	909
営業外費用	793
経常利益	4,450
特別利益	32
特別損失	1,381
税金等調整前当期純利益	3,101
法人税、住民税及び事業税	1,016
法人税等調整額	609
少数株主利益	830
当期純利益	1,863

## 連結剰余金計算書

(平成14年4月1日～平成15年3月31日)

科 目	金額(百万円)
<b>(資本剰余金の部)</b>	
資本剰余金期首残高	14,565
資本剰余金期末残高	14,565
<b>(利益剰余金の部)</b>	
利益剰余金期首残高	38,948
利益剰余金増加高	1,863
利益剰余金減少高	860
利益剰余金期末残高	39,951

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(平成14年4月1日～平成15年3月31日)

科 目	金額(百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,337
投資活動によるキャッシュ・フロー	21,899
財務活動によるキャッシュ・フロー	24,226
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,120
現金及び現金同等物の増加額	889
現金及び現金同等物の期首残高	19,259
連結子会社増加に伴う現金及び現金同等物の増加額	1,024
現金及び現金同等物の期末残高	21,173

(注)当年度の連結子会社は12社であり、持分法適用会社はありません。



# 単独決算情報

## 業績の推移

		平成11年3月期	平成12年3月期	平成13年3月期	平成14年3月期	平成15年3月期
売上高	百万円	45,137	41,923	50,479	50,410	50,511
エレベータ部門	百万円	41,585	38,098	46,042	46,670	45,679
立体駐車設備部門	百万円	3,551	3,825	4,436	3,740	4,831
輸出比率	%	22.0	12.9	14.8	14.0	10.0
営業利益	百万円	2,554	1,788	750	1,058	1,828
経常利益	百万円	4,219	3,933	2,023	2,939	4,129
当期利益	百万円	2,169	335	1,157	4,841	1,935
1株当たり当期利益	円	23.13	3.57	12.34	51.66	19.90
総資産	百万円	64,159	73,096	78,813	74,613	73,459
純資産	百万円	50,410	50,010	49,566	44,072	44,865

## 貸借対照表

(平成15年3月31日現在)

科 目	金額 (百万円)	科 目	金額 (百万円)
<b>資産の部</b>		<b>負債の部</b>	
<b>流動資産</b>	29,677	<b>流動負債</b>	22,780
現金預金	3,540	支払手形及び買掛金	6,901
受取手形及び売掛金	13,481	短期借入金	4,600
たな卸資産	11,445	前受金	2,896
その他流動資産	1,210	長期借入金(1年以内返済予定)	5,100
		その他流動負債	3,282
<b>固定資産</b>	43,781	<b>固定負債</b>	5,813
<b>有形固定資産</b>	13,067	退職給付引当金	5,227
建物・構築物	4,620	その他固定負債	585
土地	5,498	<b>負債合計</b>	28,594
その他固定資産	2,948	<b>資本の部</b>	
<b>無形固定資産</b>	622	<b>資本金</b>	12,533
		<b>資本剰余金</b>	14,565
<b>投資等</b>	30,092	<b>利益剰余金</b>	18,303
投資有価証券	3,420	(うち当期利益)	(1,935)
子会社株式	17,490	<b>株式等評価差額金</b>	474
子会社出資金	2,653	<b>自己株式</b>	63
その他投資等	6,527	<b>資本合計</b>	44,865
<b>資産合計</b>	73,459	<b>負債・資本合計</b>	73,459

## 損益計算書

(平成14年4月1日～平成15年3月31日)

科 目	金額 (百万円)
<b>売上高</b>	50,511
売上原価	38,370
販売費及び一般管理費	10,312
<b>営業利益</b>	1,828
営業外収益	2,735
営業外費用	435
<b>経常利益</b>	4,129
特別利益	10
特別損失	1,485
<b>税引前当期利益</b>	2,654
法人税、住民税及び事業税	352
法人税等調整額	367
<b>当期繰越利益</b>	1,935
<b>前期繰越利益</b>	2,263
<b>中間配当額</b>	468
<b>当期末処分利益</b>	3,730

## 利益処分

科 目	金額 (円)
<b>当期末処分利益</b>	3,730,415,944
建物圧縮積立金取崩額	4,777,830
特別償却準備金取崩額	8,249,859
<b>計</b>	3,743,443,633
これを次のとおり処分いたします。	
利益配当金(1株につき5円)	468,413,945
役員賞与金	71,000,000
(取締役賞与金 62,700,000円)	
(監査役賞与金 8,300,000円)	
建物圧縮積立金	2,477,957
土地圧縮積立金	4,630,622
特別償却準備金	723,828
<b>次期繰越利益</b>	3,196,197,281

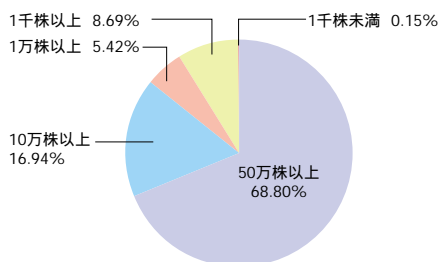
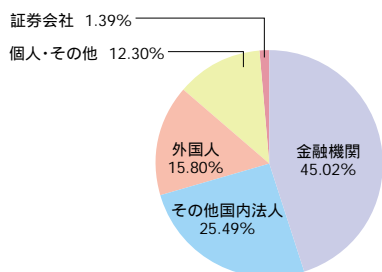
(注)1.平成14年12月10日に468,558,855円(1株につき5円)の中間配当を実施いたしました。

2.建物圧縮積立金および特別償却準備金は租税特別措置法の規定に基づいたものであります。

# 株式の状況

発行済株式の総数 …………… 93,767,317株  
 株主数 …………… 5,551名  
 上場証券取引所 東京証券取引所  
 大阪証券取引所  
 シンガポール証券取引所  
 ルクセンブルグ証券取引所

## 所有者分布状況・所有株数別分布状況



## 株式についてのご案内

決算期 毎年3月31日  
 定時株主総会 毎年6月  
 基準日 毎年3月31日  
 なお、その他必要のある場合は、あらかじめ公告する一定の日  
 公告掲載新聞 日本経済新聞  
 貸借対照表および損益計算書掲載のホームページアドレス  
<http://www.fujitec.co.jp/kessan/>  
 名義書換代理人 東京都港区芝3丁目33-1  
 中央三井信託銀行株式会社  
 同事務取扱場所 大阪市中央区北浜2丁目2-21 (〒541-0041)  
 中央三井信託銀行株式会社 大阪支店証券代行部  
 TEL (06)6202-7361 (代表)  
 同取次所 中央三井信託銀行株式会社 本店および全国各支店  
 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店

### お知らせ

(各種手続用紙について) 住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求及び配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル0120-87-2031で24時間受付しております。

(株券失効制度について) 株券を喪失した場合は公示催告による除権判決を受けて再発行する取扱いでしたが、平成15年4月1日施行の商法改正により株券は公示催告制度から除外され、新たに創設された「株券失効制度」により株券の再発行を受けることとなります。  
 お手続きの詳細につきましては名義書換代理人あてご照会ください。

1単元の株式数 1,000株

## 大株主

株主名	持株数(千株)	議決権比率(%)
1. 有限会社ウチヤマ・インターナショナル	9,056	9.70
2. ポストンセーフデボズイット・ピーエスディー ティートリーティー・クライアantz・オムニバ	6,057	6.49
3. 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,817	6.23
4. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	5,597	6.00
5. 富士電機株式会社	5,089	5.45
6. 株式会社りそな銀行	4,661	4.99
7. 株式会社みずほコーポレート銀行	3,978	4.26
8. 松下電器産業株式会社	2,867	3.07
9. 株式会社あおぞら銀行	2,388	2.56
10. 資産管理サービス信託銀行株式会社(信託B口)	1,812	1.94

# 企業データ

## 会社の概況

設立 昭和23年2月9日  
資本金 125億3,393万円(平成15年3月31日現在)

### フジテック・グループ

【日本本社】大阪府茨木市庄1丁目28-10 TEL(072)622-8151  
東京支社 東京都品川区大崎1丁目11-2 TEL(03)5740-6001  
大阪支社 大阪市西区靱本町1丁目7-4 TEL(06)6441-8521

【アメリカ本社】401 FUJITEC DRIVE LEBANON, OHIO 45036 U.S.A.  
TEL 1-513-932-8000

アメリカ FUJITEC AMERICA, INC.  
カナダ FUJITEC CANADA, INC.  
ベネズエラ FUJITEC VENEZUELA C.A.  
アルゼンチン FUJITEC ARGENTINA S.A.  
ウルグアイ FUJITEC URUGUAY  
グアム FUJITEC PACIFIC, INC.

【欧州本社】BESSEMER STRASSE 82 12103 BERLIN, GERMANY  
TEL 49-30-26-9948-0

ドイツ FUJITEC DEUTSCHLAND GmbH  
イギリス FUJITEC UK LTD.  
サウジアラビア FUJITEC SAUDI ARABIA CO., LTD.  
エジプト FUJITEC EGYPT CO., LTD.  
アラブ首長国連邦 FUJITEC UAE

【南アジア本社】204, BEDOK SOUTH AVENUE 1, SINGAPORE 469333  
TEL 65-62416222

シンガポール FUJITEC SINGAPORE CORPN. LTD.  
フィリピン FUJITEC, INC.  
マレーシア FUJITEC (MALAYSIA) SDN. BHD.  
タイ FUJITEC THAILAND  
インドネシア P.T. FUJITEC INDONESIA  
インドネシア FUJITEC INDONESIA  
インド FUJITEC INDIA

【東アジア本社】HONG KONG PLAZA, 188 CONNAUGHT ROAD WEST,  
HONG KONG TEL 852-25478339

ホンコン FUJITEC (HK) CO., LTD.  
コリア FUJITEC KOREA CO., LTD.  
中国 華昇富士達電梯有限公司  
中国 上海華昇富士達扶梯有限公司  
中国 FUJITEC CHINA  
台湾 富士達股份有限公司

## 役員

### 取締役

取締役名誉会長 内山 正太郎

代表取締役会長 大谷 謙治

代表取締役社長 内山 高一

代表取締役副社長 林 正道

代表取締役副社長 上竹原 康宏

取締役 住本 彰

取締役 河合 正和

取締役 関口 岩太郎

取締役 原田 勝弘

取締役 加藤 丈夫

### 監査役

監査役(常勤) 田矢 友三

監査役 黒石 富久

監査役 門間 進

(平成15年6月26日現在)

**フジテック株式会社**

**<http://www.fujitec.com>**